私はスシュムナーの門に入った

ラレーシュワリーによるヴァーク

私、ララは、自身の内側の深くにあるスシュムナーの門に入った、
そして、シヴァとシャクティの融合を見た。
おお、なんと素晴らしい！
私はサハスラーラのネクターの湖の中に
自分自身を完全に浸した。
私は生きていながら死んだ。
今、この世界は私に何ができるだろう！

絶え間ない修行によって、
探究者は顕在する宇宙全体と一つになる。
名前と形の世界が宇宙空間に溶け込む。
宇宙空間が消えると、
すべての苦しみを超えた至高の存在だけが残る。
これが、おお探究者よ、真の教えである。

翻訳 © 2018 SYDA Foundation®. 著作権所有。

ラレーシュワリー

ウマーカーント・コーリによる紹介

ラレーシュワリー――ララ・デードゥまたはマザー・ララとしても知られている――は、14 世紀後半にカシミールで生まれた神秘主義の詩聖です。カシミールは、山々、森、湖に囲まれた北部インドの壮大な峡谷地帯です。若い頃に、ラレーシュワリーは、彼女のグル、シッダ・シュリカンタに会いました。彼は彼女に精神的な伝授を与え、ララが生まれた地域で数世紀前から栄えていた非二元論のカシミール・シャイヴィズムの哲学を教えました。

このシャイヴァの伝統では、人の自身の大いなる自己は同じ至高なる意識であり、それが宇宙や生きとし生けるものになる、と教えています。その大いなる意識はシヴァの名で知られています。シヴァは最も奥の大いなる自己であるため、精神的な探究者は、グルの恩恵とサーダナーを進める揺るぎない努力によって、自分自身のものとして至高なる神性の認識の中に確立するようになり得ます。この達成は、その人の物の見方を変容させ、周りのすべてのものが、本当に、シヴァの神聖な光の顕現であることを明らかにします。ラレーシュワリーは、この至高なる境地に到達しました。彼女はシヴァ、敬愛する神の体験にとても没頭していたので、アヴァドゥータとなり、身体の意識を超越しました。その人生の最後には、彼女はマハーサマーディに入り、閃光（せんこう）の中に消え、シヴァの宇宙と一つに溶け合ったと言われています。

700 年間にわたって、ラレーシュワリーは、カシミールにおいて、その普遍的で宗派を超えた精神によって、ヒンズー教徒とイスラム教徒両方から尊敬されてきました。この偉大なバクタ、神を愛する者は、ヒンズー教、スーフィー、シーク教の教えを取り入れました。伝統的なブラーミンの家に生まれましたが、ララはその地方固有の言語で書き、それ以前はサンスクリット語のみ

で与えられていた難解なシャイヴァの教えを、カシミールのすべての人々が受け取れるようにしました。彼女はヴァットゥシャンまたはヴァークと呼ばれる四行詩の表現方法を作りました。それはカシミール語で「話すこと」という意味です。これらの詩は、カシミール語の最も初期の文学作品であると考えられています。

ラレーシュワリーは、彼女のヴァーク、「私はスシュムナーの門に入った」の中で、一人称代名詞を使うことにより、彼女が述べていることが自分の体験であることを示しています。インドでは、こうした個人的な語り掛けの形式はバクティの詩人が起源であり、彼らは献身的な愛の親密さを表すことを好みました。ララはここで、彼女が達成した境地は、絶え間なく精神修行に専心しているすべての人が達成可能であることを伝えています。この境地への道は、人間のサトルボディ(霊妙体)の中心経路であるスシュムナーに入り、通って行くことによって見いだされます。グルの恩恵によって覚醒されたクンダリニー・シャクティは、そこを通ってサハスラーラへと上昇します。頭頂部にある壮大な光輝のセンターであるサハスラーラは、内なる精神的な旅が完結する所です。そこで、人はシヴァと彼の神聖な力であるシャクティと一体になります。この融合により分離した個人であるという感覚は解消します。ララは言います。「私は生きていながら死んだ」。そして代わりに、「すべての苦しみを超えた至高の存在だけが残る」

これはララの体験であり、そして、彼女にとって真の教えでした。

© 2021 SYDA Foundation®. 著作権所有。